

祖師谷

年の初めと
五月五日と

祖父の家へ行くが

あの、

わたしの祖であるという顔が

たまらない

はじめ軀をやがて非禮を投げだす

透谷を進化させるだけで

干拓は一寸も進んだためしはない

私は雑司ヶ谷に戻ってくる※

裏手には

霊園があり

（見たことはないが

「こころ」も

うずくまっているのだ！

つまり棗の木陰に

半跏思惟するのがいちばんである

わたしはこの町で

毎朝足を洗っている

知覚に

（といっても色々あるが

瑠璃光如来の水遊び場もあることである※※

耳によく

猫の水呑む音が入る※※※

放ほ下せよ※※※※

いっさいを放下せよ

とさけぶはるかな祖父に向けて

わたしは毎朝

（壊れかけの蓄音機！と

阻止しそうな）舌もあらう

※雑司ヶ谷は私の生誕地である

※※二つの隠語が挿入されている

※※※これも隠語である

※※※道祖の口癖、禪では「ほうげ」と読む